

研究計画概要書

研究課題名	緩和ケア病棟と一般病棟の看護師と医師との協働
研究責任者 (所属・職名・氏名)	名古屋大学医学部保健学科看護学専攻臨床看護学講座 教授 安藤 詳子
研究分担者 (所属・職名・氏名)	名古屋大学医学部保健学科看護学専攻 4年 宮脇 千晴
共同研究者 (所属・職名・氏名)	該当なし
研究事務局 (機関の名称・住所・連絡先)	名古屋大学大学院医学系研究科 看護学専攻 安藤研究室 住所：名古屋市東区大幸南1丁目1番20号 連絡先：052-719-1553
研究の意義・目的	<p><意義> 医師-看護師間の協働はチーム医療において重要な核となる要素である。多くの場合、患者のニーズを満たすために、異なる専門職種が互いの能力を尊重・活用しながら患者ケアを行うプロセスや関係性を示す。医師-看護師間の協働について、Collaborative Practice Scales (CPS) 日本語版を作成し調査した先行研究(小味, 他 2010)では、医師及び看護師の協働的な実践の程度は米国より低く、看護師について、看護職の免許、認定看護師等の資格、職位と関連があることが明らかにされている。しかし、具体的な病院特性が医師との協働に及ぼす影響についての研究は報告されていない。そこで、今回は、緩和ケア病棟と一般病棟の看護師を対象に調査し、医師との協働について比較・検討する。</p> <p><目的> 本研究の目的は、緩和ケア病棟と一般病棟に勤務する看護師と医師との協働について、看護師の属性が医師との協働に関連する要因を明らかにする。</p>
分析の対象	全国の国指定及び県指定のがん診療拠点病院の、緩和ケア病棟及び一般病棟を対象施設とし、調査対象施設に勤務する緩和ケア病棟看護師、一般病棟看護師の計500名分の結果を分析の対象とする。
実施計画	<p>研究代表者である安藤詳子氏のもと、本学大学院博士後期課程在学中の宇根底亜希子氏が平成31年に実施した調査(倫理審査番号：18-133)のデータの一部を用いて分析する。上記の調査は以下の手順で実施された。</p> <p>「既存調査の概要」 対象者は全国の国指定及び県指定のがん診療拠点病院のうち、緩和ケア病棟及びがん相談支援センターを有する病院を対象施設とする。調査対象施設に勤務するがん専門相談員約250名、緩和ケア病棟看護師約560名、一般病棟看護師約840名の計1650名を研究対象とする。調査方法は対象施設の病院長、看護部長に研究説明書及び依頼文書を送付し、調査依頼をする。同意が得られた施設において対象者に無記名自記式質問紙法による調査研究を依頼し、記入後は個々の病棟で郵送にて返送するよう依頼する。</p> <p>調査項目は 1) 対象者背景：性別、年齢、最終学歴、専門資格、取得資格、経験年数、所属病棟、研究会参加状況、看取りの経験、ギアチェンジに関する考え 2) 医師との協働：Collaborative Practice Scales</p>

	<p>日本語版 3) コミュニケーションスキル：患者とのコミュニケーションスキル測定尺度 4) 死生観に基づくケアへの態度：FATCOD-B-J 尺度 5) がん患者家族の“死と喪失の準備”に対する支援：自作インフォームド・コンセントは行わない（その理由：郵送にて調査対象者に研究説明書を送付し、無記名の調査用紙の返送を持って、調査協力への同意が得られたとみなすため。）</p> <p>データの匿名化について、調査用紙は無記名であり、調査した地点で匿名化されている。</p> <p>「本研究での既存情報利用の手続き」</p> <p>対象者は全国の国指定及び県指定のがん診療拠点病院のうち、緩和ケア病棟及びがん相談支援センターを有する病院を対象施設とする。調査対象施設に勤務する緩和ケア看護師、病棟看護師の計 500 名を研究対象とする</p> <p>調査項目（使用するデータ）は対象者の属性（性別、年齢、最終学歴、専門資格、取得資格、経験年数、所属病棟、取得資格）と医師との協働：Collaborative Practice Scales (CPS) 日本語版</p> <p>データ提供・データ管理の手順については以下、個人情報の保護の方法を参照</p> <p><分析方法></p> <p>医師との協働に対する数値を集計し、カイ 2 乗検定、t 検定、分散分析等を用いて病棟の種別や看護師の属性など関連要因を分析する。</p>
研究期間	実施承認日から 2020 年 3 月 31 日まで
被験者などに対するインフォームド・コンセント	研究代表者である安藤詳子氏のもと、本学大学院博士課程後期課程在学中の宇根底亜希子氏が調査した匿名化された既存情報を用いる研究であり、個人を特定できず拒否機会を保証できないため、研究情報の公開のみ行う。情報公開は研究計画概要書を「保健学臨床・疫学審査委員会」ホームページに掲載して行う。
個人情報の保護の方法	使用するデータは、研究代表者である安藤詳子氏のもと、本学大学院博士後期課程の宇根底亜希子氏の研究にて収集された既存のデータで、両者の承認を得た。データは完全匿名化となっている。研究機関中は名古屋大学大学院医学系研究科の安藤研究室（本館 1 階 101 号室緩和ケアラボ）の専用の鍵付きキャビネットに保管し、研究機関終了後 10 年間保管して、データについて紙媒体はシュレッダーにかけ、CD 等は破碎して復元できないように完全に消去する。情報は厳重に管理し、研究以外には使用しない。卒論発表会などの研究成果の公開時には、対象施設などの公開は行わない。